

令和元年度 第4回南砺市行政改革推進委員会会議録【全文（一部意識）】

1. 開催日時 令和2年2月25日（火） 午後1時30分から午後3時5分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 講堂
3. 出席者 ○委員17名
長尾治明委員（委員長）、松本久介委員（副委員長）、
宮本佳子委員、米倉宗嗣委員、安達行成委員、三谷直樹委員、
小林加津實委員、堀元榮信委員、石黒厚子委員、
岡田雅美委員、武部範代委員、蟹谷康代委員、大西正起委員
沖田光弘委員、中野ミチ子委員、宮下直子委員、島田優平委員
○行革推進本部10名
田中市長（本部長）、齊藤副市長、
上口市長政策部長、川森市民協働部長、荒木市民協働部担当部長、
窪田ふるさと整備部長、芝井ブランド戦略部長、村上教育部長、
武部議会事務局長、小森地域包括医療・ケア部長、
井口地域包括医療・ケア部担当部長
○事務局 8名
柴市長政策部担当部長、石崎行革・施設管理課長、
中島行革推進係長、森施設再編係長、荒井副主幹
4. 欠席者 中山正次委員
5. 傍聴者 0名
6. 内容
報告事項
1) 市が事務局を担っている各種団体の事務移管について
協議事項
1) 第2次南砺市公共施設再編計画改訂方針について

○開会 午後1時30分

【市長政策部担当部長】定刻になりましたので第4回南砺市行政改革推進委員会を開催いたします。開会前に皆様方へお願いです。咳エチケットには何卒ご協力をお願いしたいということとアルコール消毒液を受付入口に置きますので、ご利用いただければと思います。委員の皆様方の紹介ですが、時間の関係もありますので、お手元に配布の名簿でご確認いただきたいと思います。本日、中山委員から欠席の連絡を受けております。

それでは、委員長からご挨拶をお願いします

【委員長】開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本当に月末のお忙しい中、また足元の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。今、国内の一番の関心事は、司会の方からも案内がありましたが新型コロナウイルスだと思えます。富山県は関係無いかと思っていたところ、（感染した）観光客が県内を訪れ、石川県で2人の感染者が出たということで、北陸も他府県と同じように従来以上に関心が高まっているかと思えます。今朝もテレビを見ておりましたら、この1～2週間が収束していくのか拡大していくのか、その方向性が見えてくる瀬戸際ではないかということで、一人一人が感染しないように、そのような場所にできるだけ出入りしないよう気をつけて行くしかないと思っております。今、大学は入試の時期ですが、今年

は留学生の受験者が少なく影響が出ているのかなというところで、国内の学生をしっかり確保しなければいけない状況になってきております。観光においても今まで外国人観光客を交流人口として当てにしてきたところがある訳ですが、このような状況下では交流人口の拡大は本当にますます難しく、大学でも留学生の確保という部分で、最初は本当にそのようなことは気になっていなかったのですが、いざ蓋を開けてみると縮小傾向にあるということで、いろんな部分で影響が出てきていると思います。もう一つは先週、東京大学と北陸産業活性化センターによる「データ駆動型社会における地域のあり方」というセミナーが金沢で5時間程度あり参加してきましたのですが、やはりこれからの時代は5GそれからIoT、AI、そのような情報技術の進展により、特に自治体を対象にセミナーは開催されていた訳ですが、色々な自治体でも政策意思決定をやっていく上で、従来以上に色々なデータを駆使してデータに基づいていろんな意思決定をしていかなければいけないということです。東京大学が去年白山市で地域分析を色々やった事例を2人の先生が発表されていた訳ですが、従来はできなかったような分析が具体的に移行できるようになってきて本当に人間の考えている思考に沿うようなデータ分析が着々とできるようになってきていると拝聴して思いました。行政改革においても事務局の方も大変だと思いますが、詳細なデータを提出していただき、これを基に皆さん方にいろんな意見を伺い、これからのいろんな方向というものに対して具体的に客観的に意思決定をしていただいている訳です。こういうデータをスピーディーに正確に出せるということが自治体あるいは民間においてもっと進んでいくのではないかなと思います。本日も報告事項1件と、検討事項としまして今日の目玉であります公共施設の再編計画改訂方針について詳細なデータが出されていますので、忌憚のないご意見を各立場から活発にお願いしたいと思います。大体3時ぐらいまでを目処に進めさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。簡単ですが以上、開会の挨拶とさせていただきます

【市長政策部担当部長】ありがとうございました。続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります田中市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】今日は第4回目の行政改革推進委員会の開催です。大変足元の悪い中、またお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルスの感染対策本部ということで市も立ち上げています。今朝は小中学校長そして公立私立の幼稚園保育園の園長さんにも集まっていただき、現状の情報共有と様々な何か起きた時にどう対応するのか、もしくは子供たち全員に熱をどのように測ってどう食い止めるかとか、色々協議をしていただいているところです。(感染された)観光客が市内を通過されたという中で濃密な関係を持てるような方はいなかったと県からは聞いています。どこかでトイレ休憩とかそういうことはあったかもしれませんが、そんなに影響は無いだらうと思っておりますが、石川県金沢市等々でも広がってきていますので、万全な体制を整えていきたいと思っております。今日は、行政改革推進委員会ですが、市が取り組んでいる公共施設再編をはじめとした行財政改革は、何度も何度も申し上げておりますが、市の人口が減っていく中で限られた財源や財産をいかに有効に活用するか、そしてどのようなまちづくりを進めていくかが非常に重要で大きな課題です。具体的には、子どもたち孫たちの時代に負担をできるだけ少なくしたいと思っておりますし、人口が減っても豊かな暮らしを維持する、そういうことを未来のまちづくりのイメージとして考えながら取り組んでいくことが非常に重要だと思っております。そのためにも適切な施設配置、職員数、また行政サービスのあり方を考えていく必要性があります。今日の主な議題ですが、第2次南砺市公共施設再編計画の改訂方針の提言書を1月30日に検討委員会の皆様方から提出をいただきました。その提言を基に令和27年度に市として保有すべき施設の機能、あるべき規模について庁内で検討を行いました。原案として取りまとめましたので、これについて皆様のご意見を頂ければと思っております。本日委員の皆様方

ら寄せられました意見や今後開催予定の市民説明会等で寄せられた意見を踏まえて、議会とも協議をして決定していきたいと考えています。また、南砺市行政改革大綱案、第3次南砺市行政改革実施計画案は本日までパブリックコメントを実施しているところです。いただいた意見を反映し次回の推進委員会で報告させていただきます。短い時間ですが色々な視点からご意見を賜りますようお願いを申し上げます。よろしくお願いいたします

〔資料確認〕

【市長政策部担当部長】 それでは、次第3の報告事項に入ります。規定により委員長に議長を務めていただくことになっておりますので、委員長よろしくお願いいたします

【議長（委員長）】 それでは議事を進めさせていただきます。皆様方のご協力のもとに忌憚りの無いご意見が活発に出るように進行を務めさせていただきます。では、報告事項1)市が事務局を担っている各種団体の事務移管について、事務局から説明をいただいた後に意見交換の場を設けますのでご質問ご意見等お願いいたします。では説明の方よろしくお願いいたします。

〔事務局から説明〕

【議長（委員長）】 ありがとうございます。では、只今の説明に対してご質問ご意見等をお願いしたいと思います。どなたからでも結構でございます。どうでしょうか。

【A委員】 分類Aの方で質問ですが、昨年の3月から1年間かけて関係団体との調整を進めてきたということですがAについては91件。行政センターが縮小されるという中で移管せざるを得ないということから仕方なしにということか、そういう部分もあって協議をされてきた訳ですが、一応各種団体は仕方ないかということ納得とまではいかないが仕方ないのかなという方向できているのかということ。あと、移管の実施時期は今度の4月1日からという話になるかと思いますが、それでよろしいのかということです。それとAの2番目で地域振興室が対応するという中で、これは期限を区切って何年後かに移管するという話になっているのかどうかということ。それと、例えば桂湖のレガッタ実行委員会のように活動停止中というものがある訳ですが、そういうものは実際に事務局が移管できるのかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

【行革・施設管理課長】 順番に回答したいと思います。今言われたように喜んで（受けた）というところは、おそらくあまりなかったというふうに聞いています。振興グループが無くなる関係上、仕方ないということ納得いただいている団体がほとんどであると理解しています。それから移管の時期ですが、これは順次移管をしているかと思いますが、地域振興室ができるのは7月1日、行政センターの振興グループが無くなるのは6月末ですので、団体によって移管時期は微妙にズレてくると思っており、4月から7月にかけて順次移管をしていかなければならないと思っています。それから地域振興室設置の期間は大体2~3年だろうと思っています。これについては決まったものではありませんが、いつまでもという訳にはいかないと思います。3年くらいを目処というふうに考えています。それからレガッタ実行委員会ですが（現在）イベント自体が中止となっておりますので、いざ（イベントを）やろうとなっても行政で出来るかということ中々厳しいのかなということはあると思います。もしやるということになった場合は、改めて所管の生涯学習スポーツ課になると思いますが、そちらと当該団体が協議しなければならないと思っています。

【B委員】一つだけ基本的なことを聞きたいのですが、ABCDと程度によって分類されていると思うのですが、ここに挙げてある項目は全て、基本的には行政である業務ではなく地域なり団体である業務であると考えて沢山のいろんな団体を挙げてあると解釈すべきという訳ですか。

【行革・施設管理課長】こちらの一覧表については、行政センターと各所管課で担っていた団体事務局を全て洗い出したものと理解しています。もしこの中に挙がっていないものがあるとすれば、それについては今後協議する必要があると思います。

【B委員】先ほど説明があったように、男女共同参画などは具体的にもう出来なくなって解散されると困るということが現実にあるとしたら、今すぐそういうことは無いにしてもここに書いてあるいろんな団体で地域の活動が無理になるとか、人口減少とかいろんなことで解散なりを考えなければいけなくなった時に、それは行政の業務ではないから地域で判断してやっていって良いと考えて良い訳ですか。

【行革・施設管理課長】男女共同参画については当然推進しなければいけないと思っていて、市全体のことについては南砺で暮らしません課の方で今後もきちんと引き続きサービスというか、そういうことを行っていきたいと思います。ただ、地域独自の活動というのは男女共同参画推進委員でも地域ごとに活動されていた部分があり、そういったものは地域で考え存続するかしないかを判断していただく必要があると思います。ただ、市全体として取り組まなければいけないことについては、市が責任を持って取り組んでいかなければならないと思っています。

【C委員】この業務の中で、城端の場合成人式は全て行政センターがやっていた経緯があるのですが、ここの項目から成人式が抜けています。本来は教育委員会の所管だそうですが、行政センターがやっていたのは城端だけでしょうか。そこで、城端はまだ行き先が決まっていない。そんなものまで地域づくり協議会へ突然振られてもいかがなものかということで宙に浮いた状態になっているのですが、それについても南砺市全部で成人式はどうなっているのか、もし分かれば簡単に概略を教えて欲しいと思います。それからこれは事務の話だけで、事務以外の目配せというか、行政センターが地域を守るために担ってきた業務というのは、事務的な仕事以外にあると思っていて、特に気になっているのは大規模災害が発生した時の対策本部なども従来どういう位置づけでやっておられたのか聞きたいです。現地対策本部があって避難所の開設に対するサポートとか、避難準備情報が出た時の避難所運営に対するサポートとか、担当行政センター管内で火災が発生した時の初期対応、もちろん消防団も頑張るのですが、それ以外の事もあるじゃないですか。受付を開設するとか、マスコミへの連絡とか様々、一般事務の話でなく、そういう部分で（行政センターが）担ってきたことの方が、むしろこれからの対策を考える時に大事だと思います。特に大規模災害が起きた時の現地対策本部は、今の南砺市のハザードマップや災害が起きた時のシミュレーションというのはまだ初期段階で、具体的な各地域の運用体制の確立や自主防災組織との連携などは、構築していく取りかかりが始まったというところまでいっているかいないかぐらいの認識なのですが、いきなり行政センターがなくなった時に、万が一4月以降に災害が起きた時の現地対策本部というのは現時点どんなイメージを市役所で考えておられるのか。またはシミュレーションをしっかりと早急に行い、各地域に「こういう時はこうしますからこうなります」みたいなシミュレーションを同時に示してもらわないと、自主防災をしている立場からも住民の立場からも非常に不安が残るのではないかと思いますので、今申し上げたいいくつかの点についてお願いをしたいと思います。

【行革・施設管理課長】成人式については、どこも行政センターが中心になってやっていただいております。これは団体の事務というより行政の仕事としてやっていた訳で、(今後は)生涯学習スポーツ課が中心になって行うというようなことは聞いています。また同じような日に8会場で行われますので、それをどのようにしてやっていくかは、現在考えている最中だと聞いています。それから災害のあった時のことについては、これは対応がまずくなつてはいけないのでマニュアルの見直しを行っているという聞いております。

【市長政策部長】現在もいろんな警報や注意報等が出ますが、警報時には、総務課・行政センター・ふるさと整備部の建設課などが待機する形を取っております。実際行政センター自体が縮小というか小さくなり人数も少なくなりますので、体制の見直し、それから実際の災害時の現地対策本部の形態の見直しは、防災計画も含めて検討しているところでして、しっかりと7月までには形を作っていくべきということ。今ほどの自主防災との関わりなども発展途上で、まだまだ今から考えていかなければならないことは多分にあるかと思っています。少しずつ改善しながら進めて参りますので、またご指導いただきたいと思っております。

【C委員】確認ですが、7月までには完璧なものとはまでは言わないにしても、少なくとも市の検討状況を自主防災連絡会議などで一度議論してみるとか、避難所については水害と地震で違いますが、こういうときはこういうふうを考えているとか、少なくとも南砺市で大規模地震が発生して避難所を開設する時に、どこの地域づくり協議会のどこの集落はどこの小学校の体育館へ行くとか保育園に逃げるとか、全然今まで一度もシミュレーションを示されたことが無い訳です。そういうことを非常に心配しています。総務課の危機管理係が31地区または8地域の避難所の割り振りを災害が起きてから考えるというのでは、とてもじゃないが間に合う代物ではないですよ。水害と大規模地震は違いますから予め2通り考えておかないといけないのか分かりませんが、ただ行政センターがあれば何とかするという部分もあったから特に何も示されなくても今日まで混乱も無く来ていた部分もあると思っております。そういう時は行政センターが頑張ってくれるし指示も出してくれると思っていただけから、そこまで言ってこなかったところもあったと思うのですが、いよいよ無くなるということになると、そういう何とかなるだろうという話ではダメだと思っております。事務的な事は大した問題ではなく、役所任せだったものを我々でやらなくてはいけないことは、やれば良いのであって、むしろそちら(災害時の現地対策等)の方が大事だと思っております。

【市長政策部長】ご心配されていることは良く理解できます。やはり災害によっても当然違います。行政センターが小さくなるから悪くなりましたということも当然ダメですし、山間部と平野部の違いもあります。そういうことも含めて6月、7月は一番危険な時期でもありますから、そういったキャッチボールをするような機会を設けさせていただきますので、またよろしくお願いたします。

【議長(委員長)】ほか何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。では、ご意見ご質問も無いようですので協議事項の方へ移りたいと思っております。第2次南砺市公共施設再編計画改訂方針について事務局から説明をお願いいたします。

〔事務局から説明〕

【議長(委員長)】ありがとうございました。では、只今の説明に対しましてご質問ご意見等どな

たからでも結構でございます。ありませんでしょうか

【D委員】まず質問ですが、例えばいくつかの施設の数を減らしていくという時に、今現在でも具体的にどの施設とどの施設を統合しようとか、これは廃止しようとかいう具体的なところまで、まだ決まっていないのか、ある程度決まっているのか。なぜそういうことを聞くのかという最終的な目標となる206施設の床面積が出ておりますので、そういった具体的なところまで決められているのかどうか、まずお聞きしたいです。

【行革・施設管理課長】具体的な施設は決まっておりません。例えば文化センターは4つ残したいということですが、どの施設かを決めている訳ではありません。ただ、今ほどのご質問にあったように面積が出ていることについては、あくまで仮にあてた施設があります。仮にあてただけで、これに決めたというものではありません。面積の大きな施設とか耐用年数の長いものを選ぶようにしてシミュレーションをしています。具体的にどの施設を残すのか、どの施設に集約するのかということについては、新年度に決めて行きたいと思っています。

【D委員】こちらに書かれているルールに則って進められるということだと思うのですが、大規模な更新をしないということに何回か触れられていましたが、施設の中には他の施設と複合化を図り単独では持たないというものがいくつかありました。複合化を図る時には一つの施設の中に違う機能の施設を入れるために、ある程度施設の更新が必要になってくると思うのですが、それは大規模ではなく、ある程度のものはあると理解すればよろしいでしょうか。

【行革・施設管理課長】当然小規模なものは今までの財政シミュレーションの中にも入っています。ただ、大規模なものが絶対無いかは、この後どうなっていくかによっても違ってくると思います。このシミュレーションは、あくまでも公共施設再編に限ったシミュレーションで、当然これ以外の行政改革も進めなければなりません。社会保障・人口問題研究所いわゆる社人研の人口推計に基づく低い数値ですし、人口ビジョンではもっと頑張る人口を増やしたいと思っていますので、人口が増えれば税収も増え財源も出てくるかと思っています。行財政改革や人口を増やすことによる財源等も入れながら、改修が必要な場合は対応していかなければならないと思っています。

【D委員】もう一つですが、今後この案から案が取れて「これくらいの数になります」と市民に公表されていくだろうと思います。その際どのような形になるかは、これから何か示していただけたらと思うのですが、例えば市民は、数だけを見てウチの近くのあそこが減らされるのでは？と思われるのではないのでしょうか。もちろん、市として人口や施設の老朽化とか色々な基準をもって説明されると思うのですが、どういう過程を経て、例えば学校であれば学校についての検討会をもってそこで決められるとか、どんな過程でどんなふうにということを明確に示すということ。あわせて、施設の数が減ることになれば今まで近くにあったから行けていたのにどうするのか？という方も当然いらっしゃる訳ですから、市民の移動手段をどのように確保するかも一緒に検討され、具体的にこのように考えていますということもあわせて、少しでも市民の方が安心して今後の施設のあり方を理解できるものを示していただければ良いかなと思います。

【行革・施設管理課長】ありがとうございます。新年度に具体的な施設の検討に入ります。ご意見のとおり施設の老朽度や利用者数、維持管理経費などの数字やデータの的なものも活用しながら、基本的にそういう根拠に基づいて案を作成した上で、市民の皆さんに示さなければならないと考

えていますし、なぜこういうことになったかを市民の皆さんに分かるようにした上でお示しできれば良いと思っています。また、学校など施設分類ごとに話し合うことは現時点では考えておりません。あくまでも全体の中で考えていかなければならないと思っています。それから公共交通の話もおそらく出てくると想定していますので、それらを踏まえて、どの施設をどうするかという時には、そういうことも合わせてやっていかないと中々ご理解いただけないと思っていますので、そういうことも踏まえて考えていきたいと思っています。

【C委員】25年後の施設数まで書くということで大変苦しい思いをしながら提言を出させていただいた改訂方針検討委員会のメンバーの一人として、議論の経過については概ね覚えている訳でして、一つは図書館ですが、順次複合化を進めていくけど25年後に南砺市がどれくらいの人口になるかというのは中々難しいところですが市としてしっかりとした中央図書館は将来的にも1個残すべきだろうと。ただ、福光の中央図書館は非常に古い施設に入っていて、耐用年数の関係やその他の関係で将来どこかに出てかなきゃいけないということになり、複合化も視野に入れるという意味で中央図書館を無くすとは言っていないのですが、検討委員会では、なるべく独立した形で感じの良い中央図書館を将来新しく新設して作る必要があるというふうに書いたはずなのに最終的にゼロになったということは、どこかに複合化するということでしょうか、本当にそういうことで図書館というのは良いのでしょうか。他市の類似施設と比較した場合、小矢部市が新しいのを作ったとか色々ある中で、この短いスパンで1つ新築しても構わないから独立した図書館を1個残すべきだとした案を0にされた経緯が分かれば教えて欲しいと思います。

それから、小学校と中学校が一番議論の集中するところだろうと思うのですが、今ほど説明があったようなものについて3月議会の議論の最中に、示されているようなメモ（資料）で3月6日に平会場の春光荘、3月9日に井口のつばき館で説明会をするという話ですが、この資料だけ持って説明会場に臨むと、今もあつたようにいろんな質問が出ると思います。うちのアレはどうなるのかとか様々、この数字を見て想像を逞しくして自分の地域に（施設が）残るかどうかを質問される人が続出すると思うのですが、なぜ、この3月6日9日のタイムスケジュールで議会の最中に住民説明会をされるのか。具体的な箇所付けについて1年ほどをかけてゆっくり市の内部で議論を深めていくという段階で説明会と言っても説明にならないのではないですか。それで、数だけがまた一人歩きして色々な議論が生まれてくると思うので、それは後で総括するとして、なぜこのタイミングに、何を説明しに回るのかを教えて欲しいと思います。小学校と中学校は（検討委員会でも）一番頭が痛がった（部分）、必ず反発する地域の反論が猛烈に出てくるだろうと思ひ、提言では5年経ったら小学校は1つ減る、中学校は2つ減る、15年後には小学校は6つ、中学校は4つ、後期の25年後には小学校4つ、中学校2つになるだろう。しかもこれは、それぞれの学校の耐用年数もチェックしながら、将来25年後の子供の数を想定すると残念ながらこれぐらいになるだろうという事で提出したのですが、今回の原案では後期までに全部を義務教育学校にするという。義務教育学校にするということは、8地域に小学校と中学校があるのが1つになる訳だから、どちらか潰す方の面積はカウントされたと考えて良い訳ですよ。小学校と中学校があるのを全部義務教育学校にする訳だから新築ではなく固まる。だから潰される小学校か中学校の数は体育館も含めて面積のカウントに入れたということでしょう。検討委員会で考えていた時の潰れる学校は単純に潰すという案から（義務教育学校として）1箇所に固めて潰れる小学校か中学校の面積を反映するということですよ。25年後に8つの義務教育学校となると、平と上平の小学校と中学校は合併しているから、旧8町村の中で1つはもう既に減っている訳ですから、本来7かと思ったら8とあるが、その意味が分からない。福野が大きいから義務教育学校にしないとか、吉江中と福光中が相変わらず残っているということなのか、教育委員会にもらった資料では吉江も福光も残るような話もあって良く分からないのですが、少なくとも平と上平は

合併したから除くとして 25 年後に本当に 8 地域に学校が残るのかというのが検討委員会の提言と大きく違うところです。大きく変わった理由として、本当に義務教育学校で 8 地域に学校を残すことを貫くと宣言されるというふうに考えて良いのでしょうか。尚かつ、備考欄で既存の施設を利用しながら義務教育学校にするから新しい校舎を建てない更新しないと言いながら、来年度の予算に井口小学校工事の着工予算が組み込まれているというのは、検討委員会では井口も現状のままの格好で義務教育学校として頑張ることについては何の問題も無いし頑張ったい。しかし学校の新築は有り得ないということで提言書を作ったはずですし、議事録でもそのように全会一致で決めたはずなのに、ここに書いてある文言と矛盾するし何でそういうことになったのか、そんなことをこの段階で早く決めてしまって、議会の議決もないまま 3 月 6 日と 9 日に説明会をしたらどんな混乱が起きるのか。以上のことについてお聞きしたいと思います。

【行革・施設管理課長】図書館のことにつきましては、どの施設を拠点にするということはまだ決まっている訳ではありませんが、中央図書館としての図書館機能は残さなければならないと思っています。それが福光会館なのか例えばどこか使わなくなった建物を使って中央図書館にするのかというのは、新年度きちんと決めていきたいと思っています。小矢部とか砺波は単独の建物で建てていますが、市として地域ごとに 4 つの拠点を設けたいと思っておりますので、そのうちの 하나가中央図書館の機能を持ったものということでイメージしており、今の段階では複合化、現在の福光会館も複合化の建物ですし、そういう意味で 0 としております。それから 3 月 6 日 9 日に説明会をするという理由ですが、元々今年度中に（施設の）数をいくつにするのか、どのような分類の施設をいくつ残すのかを決めたいという話をしてきたところで、ようやく原案がまとまりました。本日、行政改革推進委員会の皆さんにもお示ししましたし、住民の皆さんにもお示しして意見を頂戴する機会を設けたいということで、遅くなりましたが 3 月 6 日 9 日というタイミングになったということです。特に議会中であるとかいう理由ではなく事務的に遅れたということでのこのタイミングとなりました。学校のことについてはここに書いてある通りです。

【教育部長】委員からの質問で 8 つの地域に（学校を）残す覚悟かということですが、今から子どもの数はある程度減ってくるということをご存知のとおりです。しかし、南砺市の人口ビジョンの目標を達成しながら南砺市を維持していくということに関して、学校の役割は非常に大きいと思っております。そこで 8 つの地域に残す、尚かつ行政改革の観点からも面積の縮小も達成できるということは前々から説明しているとおおりです。施設の更新は無いはずではなかったかということですが、これも前に説明しましたが、井口の学校は既に 50 年以上経っている小学校と 40 年経とうとしている中学校で、新築するかどうかという話は別として近い将来大規模改修が必要になるということです。井口の学校は元々単級の学校で余裕教室もありませんので、今の学校の面積を少なくして一つの学校にするということではできません。そのような事情から今回は将来的に 8 地域で残すということで進めさせていただきたいと思っています。しかし、保護者の皆さんの中で小学校は 8 地域に残しても中学校は統合すべきとか、そういう意見もあるところですので、そのことについては近い将来ではなく、ある程度の時期にまた議論をさせていただく時期が来るのかなというふうに思っています。

【C 委員】今議論しないで、そういう声が出てきたら改めて議論すると言っていたら 25 年間の計画なんて作れないじゃないですか。厳しくても子どもたちのためにやらなきゃいけないことはある訳で、大人のメンツで学校を残しても、生徒が 1 人しかいないような学校、そんな事は 25 年後には無理でしょう。だから、父兄から（意見が）出てきたら考え直すというのもおかしい論理だし、難しいのは分かりますが、子どもたちや父兄からそんな（生徒が）少ない中学校があっ

てもしょうが無いのではないかという意見が出たら考え直すというのでは、方針にならないのではないか。小さな学区から中学校は本当にこれで良いのか？という意見は既に父兄からいっぱい出てきているのではないのでしょうか。この計画は何年後にもう1回見直すのですか。

【教育部長】父兄からはたくさん出ている中学校統合の話の1つの理由と言いますか、これは部活動に関することが大きいのではないかと考えています。ですから学校の部活動改革についても5年間ぐらいをかけて部活動のあり方ということを考えていきたいということで考えています。少し説明がまずかったのですが、父兄から意見が出てきたらと言いますか、部活動改革を進めながら、義務教育学校として各地域に学校を残すということは、学校の無い地域に人口が定着するのかということもあると思います。地域振興のために学校を利用するのかというご意見もありますが、そうではなく、行政としては子どもたちのことも考え、地域を存続させることも考える、この2つのバランスを取りながら考えていきたいという思いの中で、今回の結論を導いたものです。本当に難しい話、悩ましい話ではあったのですが、今の時点では教育委員会としてそのような考えで進めさせていただきたいという思いを持っています。

【行革・施設管理課長】この計画自体は5年ごとに見直しを行います。計画を作って来年が5年目になりますので、このタイミングでの見直しを進めていますし、さらにまた5年が経てば見直す予定です。

【議長（委員長）】ほか、いかがでしょうか。

【E委員】単純な話、図書館の話ですがゼロという表現ではなく、カッコ1とかにしないと、漠然と見たら無くなるのではないかというイメージを受けるので、表現の仕方を変えてもらったら良いのかなと思います。

【行革・施設管理課長】図書館は機能を残すということにしておりますので、これについては、市民に説明する際にどのように説明すれば分かり易いかを考えて資料を調整させていただきます。図書館の機能は2~4つは残したいと考えていますので、これが分かるような資料の作成を行いたいと思います。

【A委員】公民館は29施設ということですが、基本的には各地域づくり協議会に1つずつとなっていますが、(地域づくり協議会は)31ある中の29ということで、2つ無いところがあるという話です。無いところの1つ井波地区で今後、公民館というか、そういう機能があるという話になっていけば、これは市の方で色々そこら辺は汲み取っていただいて、無いところには1つ作ろうとか、確保しようとかという話になっていくのだろうというふうに思っているのですが、そういうことでよろしいでしょうか。

【行革・施設管理課長】具体的にそんな話を内部で詰めた訳ではありません。この計画を作る際も民間施設を活用するという話を踏まえていますので、行政センター機能も民間施設を活用することもあるという話をしています。行政単独ではなく、例えば井波であれば残る拠点施設の中に公民館機能を入れるとか、今もショッピングセンターの中に入っているのかもしれませんが、そういう施設をお借りするとか、そういうことも踏まえて出来るだけ公民館の機能は確保できるように考えていかなければならないのかなと考えています。

【A委員】公民館の機能は確保します、ということよろしいですか。

【行革・施設管理課長】はい。

【F委員】庁舎の数ですが、平成31年3月までが8つで、それから5、5、3となっていますが、先ほどどんなご説明でしたか。

【行革・施設管理課長】3（残るということ）の説明しかしていませんが、これは統合庁舎までの距離、市域が広いために離れたところでも行政サービスを受けられる拠点が必要で、距離のことを考えると3つほど、本庁舎とは別に2つの行政サービス機能を有する施設が必要だろうということで、合計3つを市として考えています。

【F委員】では、その前（中期と長期・前期）の5、5は？

【行革・施設管理課長】その前の5につきましては現状どの施設ということはありませんが、同様に距離のことや、市民センターの窓口がどういうふうになっていくか分かりませんが、地域の中でどこに行政機能を持ったところを確保していくかと考えた時に、中期と後期(前期)には5施設が必要だろうと考えています。

【議長（委員長）】ほか、どうでしょうか。大体よろしいですか。少し私の方から分類の表現のことで、「行政が」ということが明確に入っているのですが、先ほどもありましたが、他の機関や民間にも移管するという考え方は今後出てくると思うので分類A、B、Cも「行政が」というふうに決めてしまう表現でない方が良いと思うのですかいかがでしょうか。

【行革・施設管理課長】機能については民間のことも含めて考えておりまして、行政が単体として持つという意味で、このような表現をさせていただきましたが、行政として保有すべきとか、そういった方が良いということでしょうか。

【議長（委員長）】何か、行政がこれ、分類Cも持つと、所有して運営していくというように解釈できる表現になっていると思うのですが、市としてこういう施設があることが望ましいとか、保有とか所有というような、どこがという、ここまでの分類表現は要らないのかなと思うのですが、その表現方法について誤解の無いように検討していただけないかと、先ほどからの内容を聞いていて思いました。

【行革・施設管理課長】考えさせていただきます。

【議長（委員長）】それから、もう一点は、ちょっと難しいところなのですが、先ほどの教育の運営のあり方とか、特に書籍というメディアが図書館において、これからも中心になっていくかと言うと、やはりIoTとか5Gとか世の中自体がそういう方向へ向いている訳ですから、今後図書館という概念は、情報センターとか地域においても電子情報なんかセンターとか、そのような方向で機能が変わっていくと思うのですが、他の施設においても複合化だけの合理化では無く、機能そのものが高度な情報技術によって住民サービスが高まっていくという考え方も、どこかに少し説明があっても良いのではないかと思います。令和27年までの動きを考えるにあたって情報の話を抜きには、施設の数の減らし方とか、情報（革新等）のことを理解されずに、こういう

話になっているのかなと住民の皆さんも受け取る部分があるのではないかなと思われま。特に図書館に関しては、インターネットとかを通じて、いろんな書籍とか雑誌とか情報を、ますますこれからもっとそのような利用の仕方が多くなっていく訳ですので、今ここには複合化という省力化や効率化とか、そういうやり方しか書いていないのですが、情報技術の進展を活用することによって合理化や効率化、それから住民サービスのレベルアップを図っていくという、そのために施設の数もこれだけ削減できるという考え方も今後、未来においてはあっても良いのではないかと思ったのですが、それをどういところでどう扱うかというのは今の時点では良いアイデアが無いのですが、これは未来形の話ですので、そういうことも十分検討した上で、これだけこのように数を減少させていくということが計画されていた方が、世の中の動向にあっているのではないかと思うので、事務局の方でまた検討いただいて、次回何らかの考え方を示していただければと思います。

【行革・施設管理課長】ありがとうございます。今ほどの図書館の話は所管の生涯学習スポーツ課が担当になりますが、そちらの方でも十分そういうこと（5G、IoT等の情報技術の進展）は認識しております、とは言え、図書館だけではなく住民サービス全体にかかってくるかと思っておりますので、前半部分の最初の方に考え方というところがあったと思いますが、そちらに何か入れる方向で検討したいと思っております。

【議長（委員長）】そういうことも考慮して、こういう計画、数字が出てきていると言った方が納得しやすいのではないかなと思っておりました。ほか、何かご質問ご意見等ございませんでしょうか。大体よろしいですか。では、意見も出尽くしたようですので意見交換はこれまでとさせていただきます。本日の議事次第に関しては以上でございます。もし言い忘れたようなことがあれば事務局へ直接メールでも結構ですので提出をいただければと思います。ちょうど予定の時間になりましたので、以上をもちまして本日第4回目の委員会は終了させていただきます。この後は事務局の方へお返ししたいと思います。

【市長政策部担当部長】大変多くのいろいろなご意見を賜りまして誠にありがとうございました。その他としまして、次回のスケジュールをご連絡いたします。3月17日(火)、午後1時半から次回の委員会を開催させていただきたいと考えています。日程が近づきましたら改めてご連絡を差し上げます。よろしくお願ひ申し上げます。それから議論の中にもありましておとり、3月に入りまして2回ばかり公共施設再編計画改訂方針の説明会を開催する予定です。3月6日午後7時から平の春光荘、それから3月9日午後7時から井口のつばき館で開催する予定ですので、お誘い合わせの上ご参加頂ければと思います。それでは、閉会にあたりまして田中市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】長時間にわたりまして色々のご意見を頂きまして誠にありがとうございます。本当に公共施設再編計画というのは、検討委員会から提言をいただき、その流れや色々議論されたということは我々も理解をしていますが本当に難しいということです。この25年間、令和27年までのスパンで考えていくということの中に、委員長が最後に仰いましたが5GとかIoTとかAIということが、どこまでどう動くかというのは全く今想像がつかないほど早く進歩している気がしています。しかしながら、行政の仕事というのは、もっともっとそういうものを計画の中に入れていただければ、非常に安心していただける部分も中にはあると思っておりますが、現在それがなかなか入らない。と言いますのも、例えばマイナンバーカードができた時に我々の事業というのは全く変わるとおりましたが、現状スピード感が無いとか、そういうところでもまだまだ分

からない点があります。また、業務をロボット化して自動で計算させたりする、これはもっともっと早くなると思いますし、あと遠隔で様々な映像をやりとりしながら議論もしくはテレワークも含めてですが、いろんなものが動き始めていく時代ですので、そういった意味でも我々の目標としては、しっかりとこの面積を半分にするということ、そして黒字にしていくというところは抑えつつ、より便利さを、科学なり技術が進歩したら、そういうものをより住民サービス向上へと繋げていくということで、来年は特に施設の名前が出てきますので、しっかりと議論をさせていただき、また住民の皆さんにも説明させていただくということです。こういうことで来年はもっと練り込んでいきますということを説明するというのも含めて3月に説明会を開催させていただくということでご理解いただきたいと思います。長時間にわたり皆様方にご意見をいただきました。しっかりとまとめ上げて3月17日に再度協議いただくこととなります。どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

【市長政策部担当部長】以上で第4回南砺市行政改革推進委員会を閉会いたします。皆様方どうもありがとうございました。

○閉会 午後3時5分